



進化する確定拠出年金(DC)と ろうきんの取り組み



- 選択制 DC ツールを企業年金ホームページに掲載
- 企業型 DC の拠出限度額が引き上げられます
- どうなる日本版 IFRS

1. 選択制 DC ツールを企業年金ホームページに掲載

2014年6月、選択制 DC の節税効果を確認するツールとして「**選択制確定拠出年金(DC)制度が良くわかる！ワークシート**」と「**Web シミュレーション**」をろうきん企業年金ホームページに掲載いたしました。選択制 DC を導入されている会員のみなさまが組合員にご紹介いただくことはもちろん、導入を予定している、興味があるという会員のみなさまも一度おためしください。



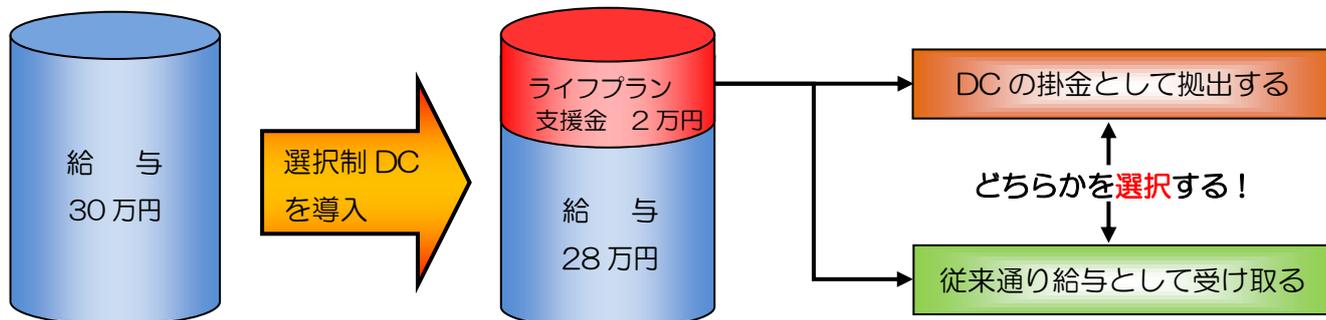
↑ 「選択制確定拠出年金(DC)制度が良くわかる！ワークシート」

↑ 「Web シミュレーション」簡易版と詳細版の2種類があります。

↑ 確定拠出年金の説明ページにも選択制 DC の説明を追記しました。

選択制 DC とは、給与等の一部を企業型 DC に掛金として拠出するか、あるいは従来どおり給与として受け取るかを従業員が選択する制度です。税金や社会保険料の負担軽減できるという大きなメリットがありますが、その反面、将来受け取る老齢厚生年金等が減少したり、一時金や残業代にも影響を及ぼしたりする可能性があります。また、最近では「確定拠出年金制度」という名称ではなく、「ライフプラン支援制度」という名称で導入されているケースが散見されるので、労働組合としてしっかりと制度を把握することが重要です。

＜選択制 DC 導入イメージ＞



2. 企業型 DC の拠出限度額が引き上げられます

2014年6月13日、政府は企業型 DC の拠出限度額を 2014年10月から引き上げる政令を閣議決定しました。この拠出限度額の引き上げについては平成 26 年度の税制改正大綱に挙げられていたものの、実施時期については未定でした。

これにより、他の企業年金がない場合が月額 51,000 円から 55,000 円へ、他の企業年金がある場合が月額 25,500 円から 27,500 円へと引き上げられることになりました。もし拠出額が増えれば、その分だけ DC に回す金額が増えるということなので、老後の資産形成における DC の存在感がより増していくといえます。

また、同じリスク・リターンのもとでは、投資に回す額が増えると、金額のブレが以前に比べて大きくなるので注意が必要です。

退職制度をめぐる環境の変化から、厚生年金基金や確定給付企業年金 (DB) などから DC への制度移行を行う企業が増えることも予想されます。労働組合としては、自社の企業年金制度についての動向を把握し、制度移行の際には、従業員にとって不利益な変更とならないよう、<ろうきん>にご相談いただく等、事前の準備と対策を考えていくことが必要です。

《企業型 DC 拠出限度額 (月額)》

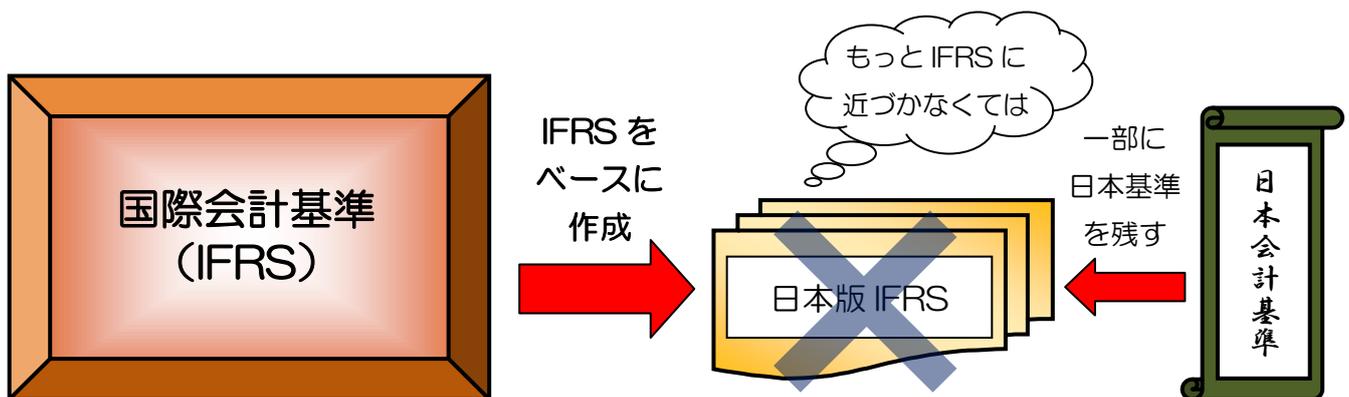
	現 行	引き上げ後
他の企業年金制度が ある 場合	25,500	27,500
他の企業年金制度が ない 場合	51,000	55,000

(単位：円)

※個人型 DC の拠出限度額については、引き上げはありませんでした。

3. どうなる日本版 IFRS

2014年6月5日、国際会計基準審議会 (IASB) は「日本版 IFRS は IFRS ではなく、日本基準の枠内の会計基準だと認識している」との見解を示しました。日本版 IFRS とは、国際会計基準 (IFRS) の一部に日本会計基準を残したものです。そのため、世界の投資家などから IFRS として認められないことがかねてから危惧されてきました。この IASB の見解により、日本版 IFRS はさらなる透明性を求められることになりそうですが、それが退職給付会計に与える影響に注目していかなければなりません。



【確定拠出年金を導入している会員のみなさまへ】

「ろうきん DC 定期預金」を商品ラインナップに加えますか？

競争力のある金利水準・高い信用力から、多くの企業に選定いただいております。(2014.7.8 時点)

ろうきん
DC 定期 (5年)
年利 **0.18%**

<ろうきん>は労働組合の企業年金・退職金を守る取組みを支援しています。
制度研修会・加入者教育の講師派遣・個人型への移換手続きサポート等<ろうきん>にご相談ください。

【 労働金庫連合会 営業推進部 Tel:03-3295-9341 Fax:03-3295-8039 】

注) 本資料は情報提供を目的としており、加入者等に対する特定商品の推奨・助言を目的としたものではありません。

信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性が保証されているものではありません。